

調査研究及び情報提供事業等に必要な経費

情報センター事業費

1. 催し等事業費

- (1) 国内連携促進

2. 文化資料事業費

- (1) 広報（情報センター）
- (2) 年次報告
- (3) ウェブサイト・メールマガジン
- (4) JFサポーターズクラブ

3. 調査研究費

- (1) JFIC事業
- (2) 国際交流顕彰事業（基金賞）
- (3) 国際交流顕彰事業（地球市民賞）

4. その他

- (1) 後援名義の付与

情報センター事業費

1. 催し等事業費 / (1) 国内連携促進

国内の国際交流活動の振興と国際交流団体のネットワーク化を目的としたセミナー等を開催する。

合計額 5,850,869 円

	事業名	共催・協力機関	期間	事業内容
1	フェスティバル参加	グローバルフェスタ Japan2010 実行委員会 ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会 ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会 ナマステ・インディア実行委員会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	全国各地で開催される国際交流フェスティバルへのブース出展、セミナー等を実施。東京（グローバルフェスタ2010）、名古屋（ワールド・コラボ・フェスタ）、大阪（ワン・ワールド・フェスティバル）にて実施。東京（ナマステ・インディア）でのイベント実施に協力
2	ウェブサイト「AIR-J」の機能及びコンテンツ増補改訂		2010.04.01 ~ 2011.03.31	全国各地で実施されるアーティスト・イン・レジデンス事業を支援し、国内外の関係者や訪日を希望する海外のアーティスト等に情報を提供するため、日本国内のアーティスト・イン・レジデンス情報（和文・英文）をウェブサイトに掲載 URL: http://air-j.info/

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 / (1) 広報 (情報センター)

イベント・スペース (JFIC : ジェイフィック) の利用促進と国際交流基金の情報発信を目的としたイベント・シリーズを実施する。

合計額 16,066,094 円

	事業名	期間	事業内容
1	JFICイベント	2010.04.01 ~ 2011.03.31	<p>イベント・スペース (JFIC) の利用促進と国際交流基金の情報発信を目的としたイベント・シリーズ。2010年はパイロット事業として、外部団体と連携して実施</p> <p>第1回 「AIR_J」ウェブサイトリニューアル記念ミニフォーラム アーティスト・イン・レジデンスと都市の創造拠点 ―フィンランド、ノルウェー、北海道の事例から― 共催：フィンランドセンター (2010.06.14)</p> <p>第2回 「カルチュラル・ミーティング・ポイント サマーセミナー ～日本の文化政策とアートシーンの現在～」 (2010.07.16)</p> <p>第3回 「カナダ5都市公演帰国報告会 「ギタリストが見る／見た世界」大萩康司+荘村清志 トークセッション&ミニライブ」 (2011.01.29)</p> <p>第4回 「AIR!AIR!AIR!―海外でステップアップを目指せ―新進～中堅アーティスト・キュレーターのための新しいミーティングシリーズ」 (3回シリーズ) 共催：トーキョーワンダーサイト、Arts and Law (2011.01.18、02.05) ※但し、第3回目は東日本大震災の影響により中止</p> <p>第5回 「国際交流基金招へい・制作 現代演劇作品記録上映シリーズ 記録映像で見るアジア現代演劇 ―1990年代から2000年代へ―」は、東日本大震災の影響により平成23年度へ実施延期</p>

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 / (2) 年次報告

国際交流基金の活動について年度ごとに総括・報告する年報を発行する。

合計額 8,916,107 円

	事業名	事業内容
1	和文年報 2009 及び英文年報 2009	国際交流基金の平成21年度（2009年度）事業に関する年報の作成及び送付。 和文2,500冊、英文1,500冊を作成

2. 文化資料事業費 / (3) ウェブサイト・メールマガジン

ウェブサイト、eメールマガジンの配信を通じて、プログラムガイドライン等も含めた国際交流基金の各種事業や、国際文化交流に資する情報提供を行う。

合計額 25,727,052 円

	事業名	事業内容
1	Webサイト運営	国際交流基金の事業に関する情報、公募事業の案内、申請書類、その他の情報をインターネット上で提供 URL: http://www.jpff.go.jp/
2	ウェブマガジン	2010年8月より、読み物ポータルとしてウェブ版『をちこちMagazine』をスタート。毎月1日発行。平成22年度は、8～3月（但し12・1月号は合併号）の7回発行。各号ごとにテーマを設定して特集を組み、国際交流基金事業をベースに対談や寄稿、報告等を掲載。平成22年度の特集テーマは、「これからの国際文化交流」（2010年8月）、「越境する文学」（9月）、「音楽が紡ぐ出会い 日本×アフリカ」（10月）、「表現としてのマンガ」（11月）、「今を生きる文化遺産」（12月・1月）、「日本映画に魅せられた世界の映画人」（2011年2月）、「世界がであうBUTOH」（3月）。 また、平成21年末までで休止となった国際文化交流専門誌『をちこち』記事をデータベース化して、過去の記事を電子データとして検索・講読可能とした
3	メールマガジン	国際交流基金の事業予定その他の情報を、メールマガジンとして配信 配信回数（年間）：日本語版 48回（毎週発行）、英語版 24回（隔週発行）
4	ソーシャルメディア	国際交流基金の事業に関する告知や報告をソーシャルメディアで発信 ブログ「地球を、開けよう。」年間更新回数：52回 URL: http://d.hatena.ne.jp/japanfoundation/ Twitter ツイート数：622件 URL: https://twitter.com/Japanfoundation
5	動画配信	ウェブサイト上で国際交流基金の実施した催し物等の映像ファイルを公開

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 / (4) JFサポーターズクラブ

年間一定額の寄附金を会費として支払った個人に対し、基金に関する情報を提供する。

合計額 1,284,251 円

	事業名	事業内容
1	JFサポーターズクラブの運営及びイベントの実施	国際交流基金への支援者に国際文化交流に参加してもらうことを目的として運営してきたJFサポーターズクラブの会員及び一般参加者を対象に、メールマガジンやニュースレターの発行を行うとともに、年間で5回のイベント（ワークショップ・対談他）を実施。2010年1月をもって新規会員募集を止め、会員資格の最終有効期限となった2011年1月をもって本事業を終了

3. 調査研究費 / (1) JFIC事業

国際文化交流に関する情報提供のため、ライブラリーとイベントスペースをそなえるJFIC（ジェイフィック）を運営する。

合計額 32,661,684 円

	事業名	事業内容
1	JFICライブラリーの運営	国際交流基金の実施事業に関する出版物や映像資料、国際文化交流・文化政策に関する図書資料、外国語で書かれた日本紹介図書・映像資料などを所蔵。研究者や国際文化交流に関心のある幅広い利用者に情報を提供 ①所蔵資料合計（視聴覚資料を含む）： 38,703点 （内訳：図書 36,223冊、視聴覚資料 684点、マイクロ資料 1,796点） 雑誌 420冊、オンラインジャーナル 21点、新聞 8紙 ②利用者数（年間）： 20,053名 ③貸出点数（年間）： 3,179点 ④レファレンス件数（年間）： 921件

3. 調査研究費 / (2) 国際交流顕彰事業 (基金賞)

学問、芸術その他の文化活動を通じて、国際文化交流に特に顕著な貢献があった個人・団体等に対し、その功績を顕彰する。

合計額 26,239,552 円

	種別	受賞者	現職	授賞理由
1	国際交流基金賞 (文化芸術交流部門)	佐藤 忠男 SATO, Tadao	映画評論家	日本を代表する映画評論家であり、アジア映画研究の先駆者として映画分野における国際交流に積極的に取り組み、特に従来紹介されることの少なかったアジア諸国の優れた作品に光を当て、日本のみならず世界の観客にアジア映画への関心を高める上で大きく貢献した
2	国際交流基金賞 (日本語部門)	サヴィトリ・ヴィシュ ワナタン VISHWANATHAN, Savitri	デリー大学 前教授	デリー大学において日本語・日本史・日本政治の講義を長年担当し、インドにおける日本研究及びその基礎となる日本語教育をインドで根付かせ、後進の育成に大きく貢献した
3	国際交流基金賞 (日本研究・知的交流部門)	ベン=アミー・シロニー SHILLONY, Ben-Ami	ヘブライ大学 名誉教授	ヘブライ大学において日本研究の第一人者として日本の歴史研究分野で優れた功績を挙げると共に、世界各地で日本文化理解や学术交流の促進・日本研究の推進に大きく貢献した

情報センター事業費

3. 調査研究費 / (3) 国際交流顕彰事業 (地球市民賞)

国内各地で行われている地域に根ざした国際交流活動を振興するために、この分野で活躍している国内団体・個人を顕彰する。

合計額 14,333,131 円

	受賞者	都市	授賞理由
1	特定非営利活動法人アクション	東京都武蔵野市	東京とフィリピン国内3カ所に事務所を設け、子どもたちが自力で夢に向かってチャレンジできる環境作りを目指して活動。また、民間企業と提携し菓子袋を再利用したエコブランド「エコミスモ」を立ち上げ、現地女性の雇用創出や自立支援につなげている
2	多文化まちづくり工房	神奈川県横浜市	外国籍住民が約3割を占める神奈川県営いちょう団地にて、多文化共生のまちづくり、人づくりを目指して活動。自分たちのまちは自分たちで守ろうと地域防災リーダー“TRYangels(トライエンジェルス)”を立ち上げる等、地域の防災活動にも積極的に携わっている
3	特定非営利活動法人ダンスボックス	兵庫県神戸市	阪神大震災において被害の大きかった新長田を拠点に、つくるダンス、みせるダンス、交換するダンスなど、地域に密着し、先鋭的なコンテンポラリーダンスを神戸から世界に発信する活動を行っている

情報センター事業費

4. その他 / (1) 後援名義の付与

一定の要件を満たす国際文化交流事業に対して、国際交流基金の後援名義の使用を承認し、当該事業の実施を支援する。

合計額 0 円

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
1	もう一つのシルクロード —半島から—	韓国	民俗工房	2010.06.08 ~ 2010.06.09	シルクロードをテーマにした、創作音楽劇を公演。シルクロードの歴史を背景に、人類の平和史観を問い掛けた。国立国楽院（ソウル）にて平和へのメッセージを日韓アーティスト（WOOダンスカンパニー、吉原圭子その他）が舞台で表現・発信し、新たなアジア文化を共有、親善交流を深めた
2	第3回日韓若手音楽家交流コンサート from Switzerland	韓国 日本	日韓若手音楽家交流委員会	2010.09.02 ~ 2010.09.12	スイスの音楽学校、バーゼル・スコラ・カントルムの卒業生、もしくは在学中の日本人、韓国人の若手音楽家グループがソウル（10.09.02）と日本国内（東京10.09.04、館林09.06、仙台09.10、秋田県仁賀保市09.12）でコンサートを行い、日韓両国間の親睦を深めた
3	2010 昌原 JAPAN WEEK	韓国	在釜山総領事館	2010.10.01 ~ 2010.10.09	1998年の日韓首脳会談で、地方における文化交流促進の重要性が認識されたのを契機に、以来毎年、韓国の地方都市で日本文化を紹介するJAPAN WEEKを開催。本年度は、慶尚南道・昌原市にて講演会、展示会、芸術公演、ワークショップ等さまざまなイベントを実施し、一般市民の日本に対する理解及び関心の一層の向上を図った
4	劇団態変 韓国公演	韓国	劇団態変	2011.03.21 ~ 2011.03.25	劇団態変は身体障害者の身体の形状や動きの不自由さを表現力に転化させ、新たな美を生み出す挑戦を継続している。本企画では、実在の人物、黄態度を主人公とした『ファン・ウンドー一代記』を同氏の祖国、韓国・ソウルと故郷固城（コソン）で上演。韓国の障害者エキストラや黒子スタッフを養成し、日韓のメンバーが共に作り上げる舞台公演を実施
5	第5回全中国選抜中国日本語スピーチコンテスト	中国 日本	日本経済新聞社	2010.04.01 ~ 2010.07.26	中国全土の大学生を対象に、北京、上海、広州、保定、大連、武漢、蘭州、成都の8都市で予選会を行い優秀者16名を選出し、日本に招へいして本選を開くと共に、彼らに日本の政界、経済界の人物や大学生たちと交流する機会を設ける。中国大学生の日本語学習意欲向上と、日本や日本人に接する機会を提供することで、対日理解の促進・深化を図ることを目的とした事業。中国教育国際交流協会、日本華人教授会議、日本経済新聞社の3者による共催事業
6	第6回香港中高生日本語スピーチコンテスト	中国	香港日本語教育研究会	2010.04.18	香港の中・高校生の日本語学習を奨励するために開催する日本語スピーチコンテスト。論題が自由な「スピーチの部」に加え、初・中級学習者の参加を促すために課題詩「暗誦の部」を設けて実施。2009年度の優勝者 Ms. Wong Hayley Hai Ning(王凱寧)及び本年度の優勝者 Mr. Yeung Wan Lung(楊雲龍)が「第15回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」(No.23参照)へ派遣された

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
7	日中青少年交流事業	中国	茨城県日中友好協会	2010.08.08	2010年上海万国博覧会場アジア広場において、日本と中国の高校生がロック音楽のバンド演奏を通じて交流を図る <i>TEEN'S ROCK IN SHANGHAI</i> を開催。日本からは、 <i>TEEN'S ROCK IN HITACHI-NAKA'09</i> の優秀な評価を得たバンド5組が参加し、中国のバンド5組とともに演奏を披露。イベント運営には日中両国の高校生約50名がボランティアスタッフとして参加
8	第7回日本語教育セミナー in 西安：第17回陝西省大学生日本語弁論大会	中国	社団法人全国日本学会	2010.12.11 ~ 2010.12.12	中国陝西省における日本語教育分野の国際的な事業として、教育及び文化の国際的な振興を推進することを目的に開催。12月11日の日本語教育セミナーでは、中道真木男（名古屋外国語大学教授日本語学科長）、森本順子（京都外国語大学日本語学科教授）、由井紀久子（京都外国語大学日本語学科教授）、阿部新（名古屋外国語大学日本語学科講師）が作文の添削、受身表現の学習等をテーマに、現地の日本語教育研究者及び従事者（日本人・中国人教師を含む）を対象にしたセミナーを開催。12月12日には、陝西省の各大学選抜学生による日本語弁論大会を開催
9	第20回日中友好の声日本語中国語弁論大会 第6回 日中友好の声日本語弁論グランドチャンピオン大会	中国	日中友好の声日本語・中国語弁論大会実行委員会	2011.03.26 ~ 2011.03.27	日中両国の若者達が互いの国の言葉を理解することで日中交流を促進する事業。第20回日本語中国語弁論大会(11.03.26)、第6回日本語弁論大会全国大会(11.03.27)を天津外国語大学で開催。3月27日第6回全国大会では、「原発事故に思うこれからのエネルギー問題」をテーマにスピーチを行う。最優秀賞は楊樂穎（天津外国語大学）が獲得。本弁論大会は、中国で最も長い伝統を誇る日本語弁論大会であり、この20年間で参加した弁士の数は500名を超えた
10	第11回大阪国際音楽コンクール	日本	大阪国際音楽振興会	2010.04.01 ~ 2010.10.11	世界平和と相互理解に貢献するため、関西から芸術、文化を発信すると共に、世界に羽ばたく若い音楽家を見出すことを目的とした音楽コンクール。ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽部門のそれぞれについて予選、地区本選、ファイナルがあり、ファイナルでは世界の音楽界に通用する逸材を発掘、顕彰し、演奏発表の場を提供。第1位の者にはグランドファイナル＝ガラコンサートで演奏の機会を提供。更にアマチュア部門も併設し、より多くの人々に門戸を開放している
11	ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2010～ショパンの宇宙～	日本	株式会社東京国際フォーラム	2010.04.28 ~ 2010.05.04	クラシック音楽愛好者の裾野を広げ、その素晴らしさを老若男女あらゆる人々で分かちあい、特に子供達に、クラシック音楽の素晴らしさと感動を伝え、21世紀を担う彼らの健全な育成を図る。第6回目は「ショパンの宇宙」をテーマに設定、世界各地で活躍する音楽家達の交流を通じ、国・地域を越えて諸外国と日本との文化交流を促進する。地域の魅力ある街づくりに貢献し、その魅力を世界に向けて発信する
12	黒澤明生誕100年記念エキシビジョン&シネマ「スリー・ステージズ・キャラバン」	日本、米国、ブラジル、イタリア、フランス、トルコ	財団法人黒澤明文化振興財団	2010.05.01 ~ 2010.08.31	黒澤明（映画監督）の生誕100年を記念し、その生涯と仕事を回顧する展覧会と彼の代表作のレトロスペクティブ上映及び映画の現在を示す新作映画の上映という3つのステージで構成。世界の6都市（東京、ニューヨーク、サンパウロ、ヴェネチア、パリ、イスタンブール）を巡回

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
13	文化遺産国際協力コンソーシアム・シンポジウム「文化遺産保護は平和の礎をつくる」	日本	文化遺産国際協力コンソーシアム	2010.05.25	本年度のシンポジウムは平山郁夫の足跡を辿り直し平和構築への共感と協同を広く世界に求めることを目的に実施。国連大学にて「文化遺産と平和への祈り—平山郁夫の足跡」と題し、ジャック・ジエス（フランス独立行政法人ギメ東洋美術館館長）、樊錦詩（中国敦煌研究院院長）、宮田亮平（東京藝術大学学長）が講演、続いて「文化遺産保護と平和構築」をテーマに石澤良昭（上智大学学長）、前田耕作（和光大学名誉教授）、星野俊也（大阪大学大学院教授）、大石芳野（写真家・日本大学客員教授）が登壇
14	Shizuoka 春の芸術祭2010 ～未完成な世界（ハーモニー）～	日本	静岡県舞台芸術センター（SPAC）	2010.06.05 ～ 2010.07.04	静岡県舞台芸術センター（SPAC）では、独自の舞台芸術作品の創造と並行して、世界の優れた舞台作品を上演する「Shizuoka 春の芸術祭」を2000年以来毎年春に開催。「劇場は世界をのぞく窓」と捉え、世界各地の作品を上演し、多様な文化・芸術が交会う機会を提供。2010年は、12カ国の13作品を上演
15	第15回日本・インドネシア美術文化交流展（東京展）	日本	インドネシア美術研究会	2010.06.17 ～ 2010.06.24	相互の研鑽と交流を通じてインドネシアと日本の相互理解を深めることを目的に、インドネシア人作家と日本人作家による交流展を東京（国際機関日本アセアンセンター・ホール）で開催。油彩画、日本画、水彩画、パステル画、アクリル画、写真、造形などの美術作品約100点を展示
16	渋沢栄一賞	日本	埼玉県	2010.07.01 ～ 2011.03.31	多くの企業の設立や育成に携わると同時に、福祉や教育等の社会事業にも尽力した渋沢栄一の業績をたたえ、その精神を今に受け継ぎ、健全な企業活動を営むとともに国際交流・協力分野を含む社会貢献活動が顕著な全国の企業経営者に渋沢栄一賞を授与
17	Kids' ISO14000 プログラムの普及と国際交流	日本 フランス	特定非営利活動法人国際芸術技術協力機構	2010.07.01 ～ 2011.03.31	環境をテーマに、「現状分析、目標設定、実行、結果の振り返り（PDCA）」というプロセスを体験させることにより、子供達に問題解決能力をつけさせ、同時にプログラムを実施した海外の子供達とのネットワークを構築することで、子供同士が国際理解を深める機会を提供
18	日本、アジア・太平洋の音楽 韓国の名匠 黄秉冀 伽耶琴の真髄	日本	財団法人新日鐵文化財団	2010.07.02 ～ 2010.07.03	日本とアジアの伝統音楽が、どのように相互に影響し発展してきたかを探るシリーズ。韓国を代表する伽耶琴（カヤグム）演奏家・黄秉冀（ファン・ビョンギ）の紀尾井ホールにおける10年ぶりの公演。夜公演「韓国伝統音楽の彩り」では・黄秉冀の伽耶琴独奏に加え、女唱歌曲、宮中舞踊、器楽独道で多彩な韓国音楽を演奏。昼公演「伽耶琴散調 完全版」では、韓国の演奏会でも滅多に演奏されることのない大作で世界的にも注目されている黄秉冀伽耶琴散調の完全演奏を実施
19	創立25周年記念 女声合唱団「黎明」第8回演奏会	日本	日中友好・女声合唱団「黎明」	2010.07.04	音楽による日中友好交流活動を続けてきた女声合唱団「黎明」の創立25周年記念事業。これまでの成果として演奏会を行い、また中国人音楽家を招へいして一部ジョイントのステージを持ち、中国の音楽を紹介する演奏会を開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
20	2010金沢工業大学／米国図書館・情報振興財団 図書館・情報科学に関する国際ラウンドテーブル会議	日本	学校法人金沢工業大学	2010.07.08 ～ 2010.07.09	現在急速に発展し続ける新しい情報技術による「eラーニング」が教育・研究に及ぼしている影響をテーマに、ジャニス・R・ラチャンス(米国専門図書館協議会代表)、ジェームズ・G・ニール(コロンビア大学情報担当副学長／図書館長)、スティーブン・G・ニコルズ(ジョンズ・ホプキンス大学教授)、ジュデット・C・ラッセル(フロリダ大学ジョージ・A・スマザーズ図書館長)、ジョン・P・ウィルキン(ミシガン大学図書館情報技術担当准館長／ハーティトラスト常務理事)を招へいし、先端的な事例紹介や実例をもとに討論する国際会議を開催
21	中央アジア地域の留学生受入強化と教育・研究充実に向けた国際シンポジウム	日本	国立大学法人筑波大学	2010.07.15 ～ 2010.07.16	中央アジア地域の言語(言語学・日本語教育)、教育、社会、理系分野に関する研究者及び大学院生の交流の場として、知的交流を図ることを目的として国際シンポジウムを実施。筑波大学に在籍する中央アジア地域からの留学生の研究発表、講演会「中央アジア地域に対するJICAの取り組み」、カザフ国立大学、タシケント国立東洋大学の紹介、渡日前教育のあり方について中央アジア地域の教育担当者や国内の関係者と討議を実施
22	日本コソボ国交樹立記念文化交流特別演奏会	日本	日本コソボ国交樹立記念文化交流特別演奏会実行委員会	2010.07.17 ～ 2010.07.25	2000年コソボ紛争当時難民であった13名の弦楽器奏者がコソボフィルを設立。2007年には日本人指揮者柳澤寿男を首席指揮者に迎え、戦後復興の中、多くの名演を残した。コソボ独立宣言(2008.02.17)を受け、日本政府も国家承認と共に国交を樹立。交流の機会が無かったコソボと日本のオーケストラの間に初めて交流が生まれることとなった。演奏会には、バルトン・ベチリ(作曲家／コソボ文化大臣)が来日し、同氏の作品も演奏された
23	「第15回海外高校生による日本語スピーチコンテスト」及び異文化交流プログラム	日本	特定非営利活動法人エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ	2010.07.23 ～ 2010.08.01	海外12カ国(国と地域)で日本語を学習している高校生が出場する、日本語のスピーチコンテスト国際大会。コンテスト出場者は、日本滞在中に、日本の青少年との交流活動を通じて、それぞれの国や文化、お互いのことを理解し合い、友情を育む「異文化交流プログラム」や、コンテスト出場者と日本の青少年が日本語を用いながら、現代社会の様々な問題を青少年の立場から意見交換する「日本語イマージョンプログラム」にも参加
24	第31回霧島国際音楽祭	日本	財団法人ジェスク音楽文化振興会	2010.07.25 ～ 2010.08.08	地元鹿児島はもとより、日本及びアジアのクラシック音楽文化の発展に資することを目的に、日本国内及びアジアの音楽家を目指す学生たちを対象に、世界一流のアーティストを講師に招いてマスター・クラスと演奏会を開催
25	第9回夏期教員ワークショップ	日本	公益財団法人武蔵野市国際交流協会	2010.07.29 ～ 2010.07.30	「学校と地域をつくる国際理解教育」をテーマに、地域に暮らす外国人やNGOとの協働での授業づくりを推進することを目的に、国際理解教育の理念・理論及び参加型学習の手法や実践事例を紹介しながら、教員が授業実践のヒントを獲得できる場を提供

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
26	第13回広島国際アニメーションフェスティバル	日本	広島国際アニメーションフェスティバル実行委員会	2010.08.07 ~ 2010.08.11	国境や言語を越えて人類共通のメディアであるアニメーション芸術を通じて「愛と平和」の精神のもとに開催する、国際アニメーションフィルム協会 (ASIFA) 公認の映画祭。グランプリ、ヒロシマ賞、デビュー賞、木下蓮三賞、観客賞などが選ばれるコンペティションの他、特別プログラム、ワークショップ等多彩なプログラムを実施
27	Study Trip in Japan 2010	日本	The Asian Law Students' Association Japan (ALSA Japan)	2010.08.12 ~ 2010.08.19	相互理解を通じた友情を草の根から育み、アジアの地域的協調に基づく平和で公平なより良い社会を実現するために、未来を担うアジアの法学生が日本に1週間滞在し、日本国内の受入機関を交え、学術交流（国際的不正コピー商品の蔓延、東アジア地域人権規約の可能性、東アジアにおける移民の人権レジーム構築等）や文化体験（社会見学やスポーツ大会）などの交流事業を実施、計102名が参加
28	第9回東京国際和太鼓コンテスト	日本	東京新聞事務局	2010.08.14 ~ 2010.08.15	近年飛躍的發展を遂げている和太鼓の、国際的に通用する奏者の育成を目的としたコンテスト。「組太鼓青少年の部」に10組（10.08.14）、「大太鼓の部」10名、「組太鼓一般の部」10組（10.08.15）が競演。各部ごとに最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を選出
29	第23回 JAPAN TENT－世界留学生交流・いしかわ2010－	日本	JAPAN TENT開催委員会	2010.08.19 ~ 2010.08.25	日本各地で学ぶ世界各国からの留学生を石川県に引き、県内各地の特色を生かした交流事業を通じて日本の歴史や文化を学ぶ機会を提供。参加留学生は、県内滞在中全期間を一般家庭でホームステイし、石川県民と参加留学生が国籍や言語、文化の違いを乗り越え交流し、真の相互理解と国際親善に寄与することを目指した。本年度は、76カ国から300名の留学生が参加
30	第47回全国国際教育研究大会 茨城大会	日本	全国国際教育研究協議会	2010.08.20 ~ 2010.08.21	「国際社会を主体的に生きる人間の向上を目指して」を大会のテーマに、基調講演「国際社会を主体的に生きる」及び「私も高校に入りたい～日本語を母語としない生徒たちの実態」「教師再生の国際協力」等6つのテーマで分科会を開催。加えて第30回高校生英語弁論大会、第10回留学生日本語弁論大会を実施
31	高校生小論文コンテスト	日本	城西国際大学国際人文学部国際文化学科	2010.08.23 ~ 2010.11.06	大学入学前の若い世代に異文化理解や国際交流に関心を抱かせることを目的に、「私の異文化体験」をテーマにした小論文コンテストを行い、優秀作品を表彰
32	第6回ルーマニア国際音楽コンクール	日本	日本ルーマニア音楽協会	2010.08.25 ~ 2010.08.28	音楽を通じて日本とルーマニアの文化交流を深め、日本を中心に広くアジアにルーマニアを紹介する目的で設立された日本ルーマニア音楽協会が、2005年以来毎年夏に開催しているクラシック音楽コンクール。最優秀賞受賞者は、ルーマニアで開催される音楽祭に出演し、海外デビューの機会が与えられる。本年度は、弦楽器部門に出場した会田莉凡（ヴァイオリン）が最優秀賞を受賞。ルーマニアからの招へいを受け、ポバシリ・エネスチーネ音楽祭に出演

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
33	<知り合う、学びあう>遙かなる時を受け継いできた太陽のオリエンタルダンス	日本	株式会社ナカツボ	2010.08.29 ~ 2010.09.22	エジプトを拠点に、民族舞踊オリエンタルダンサーとして活躍している木村カスミが日本へ一時帰国する機会に、神秘的なアラブ音楽と情熱的なベリーダンス公演（群馬県玉村町、富山市、東京都）を実施
34	スペイン×日本クリエイターの対話	日本	セルバンテス文化センター東京	2010.09.01	「ともに育む文化」をテーマに、建築、コミック・マンガ、文学に関する講演会を開催。建築：隈研吾（建築家）、マヌエル・ブランコ（BLANCO, Manuel：マドリド建築工科大学教授）、コミック・マンガ：里中満智子（漫画家）、パコ・ロカ（ROCA, Paco：マルチクリエイター）、文学：大江健三郎（作家）、ハビエル・サルカス（CERCAS, Javier：ジローナ大学）による対談を実施
35	吉左衛門X LOUBIGNACの空の下で 楽吉左衛門フランスでの作陶ーアンドッシュ・ブローデルとともに	日本	公益財団法人佐川美術館	2010.09.04 ~ 2011.03.21	2007年以降、4年間にわたり楽吉左衛門がフランスで作陶した作品の中から茶碗を中心に、同氏の友人であるアンドッシュ・ブローデル（PRAUDEL, Andoche：陶芸家）の作品と共に展覧
36	全国日本語学校対抗「日本検定クイズ大会」	日本	日本検定クイズ大会実行委員会	2010.09.10	外国人留学生の日本文化理解を深める目的で、日本の文化や社会に関する知識を「日本検定」というクイズ形式にして競い合う催し。本年度は全国の日本語学校32校で学ぶ64名が会場、来場者数は680名。国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催
37	あーすフェスタかながわ 2010	日本	あーすフェスタかながわ 2010 実行委員会	2010.09.11 ~ 2010.09.12	地域社会と在住外国籍県民がより交流を深め、相互の協力関係を作り上げていく機会として、在住外国籍県民やNGO等が企画・協力して公演やワークショップ等を行い、参加者が「多文化共生」や「国際理解」について共に考え、語り、楽しむ催しを開催
38	「作家歴50周年記念」豊田豊展「ブラジルの大地と不可視の世界」	日本	天童市美術館	2010.09.11 ~ 2010.10.11	山形県天童市出身、ブラジル在住豊田豊（造形アーティスト／環境美術家）の作品展。1958年に渡航して以来、ブラジルの広い大地に魅せられその空間を表現しようとし続けている彼の作品を通じて、彼が50年間追求してきた不可視の世界をふるさと天童市で紹介
39	第32回ぎふアジア映画祭・グットシアター2010	日本	ぎふアジア映画祭実行委員会	2010.09.11 ~ 2010.12.26	「ぎふアジア映画祭」は、アジア各国の映画を上映し、その国の文化風習などに触れる機会を提供し、アジアの文化に対する理解を深める場とすることを目的としたもの。また「グットシアター2010」は、アジア以外の様々な国の優れた作品を上映し幅広い年齢層に対して鑑賞の機会を提供する催し
40	SWISS WEEK — ショパン生誕200年記念公演	日本	若手音楽家育成アヤマメ基金	2010.09.18 ~ 2010.10.02	バーゼル音楽院の卒業生、在學生を中心に広く世界から若い音楽家を発掘し、育成するための支援活動。また日本、スイス、その他の国の若手音楽家が共演する機会を提供することを通じて関係国の文化交流促進に寄与する。本年度は、ショパン生誕200周年を記念し、二宮町、名古屋市、川崎市、長崎市、宝塚市、広島市、京都、富山市でコンサートを開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
41	「中秋月・中秋楽」交流会	日本	東京大学中国留学生学友会	2010.09.19	在日留学生と日本人学生との交流と親睦を深めるため、中秋節をテーマに立食パーティ他、演芸などを行う交流会を実施
42	丹波の森国際音楽祭 シューベルティアードたんば 2010	日本	丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば実行委員会	2010.09.25 ～ 2010.11.13	国境を越えた視野と草の根の視点から、シューベルトの音楽を通じた地域交流・国際交流の一層の推進を図るため、文化施設を始め市内各所でコンサートを行う音楽祭を開催。 本年度は、「丹波の森の音あそび」をテーマに、スウェーデンとの友好を深め、また地域おこしに取り組む兵庫県内の他市町との交流を深める音楽企画を実施
43	第23回アジア太平洋子ども会議・イン福岡 (APCC)	日本、アジア 地域区分困難、米国、フランス	特定非営利活動法人アジア太平洋子ども会議・イン福岡	2010.10.01 ～ 2011.09.30	アジア太平洋諸国・地域の子供たちが交流体験を通してお互いの国や地域、文化について考える機会を提供し、相互理解を促進、異文化体験を通じて、国際感覚あふれる青少年を育成する事業。 【派遣事業】では春休み期間中に、日本の子供たちを海外（モンゴル、インドネシア、シンガポール、スリランカ、モルディブ、ハワイ、ニューカレドニア）に派遣し、現地でのホームステイや学校訪問などを通じて生活文化を直に体験させ 【招へい事業】は、夏休み期間中に、アジア太平洋地域から「子ども大使」を招へいし、福岡でホームステイや交流キャンプ等を行うことで、海外の子供たちに日本に対する理解を深めてもらうと同時に、未来を担う子供たちにアジア太平洋の文化の多様性と異文化理解の大切さを実感させることを目的として実施
44	第34回福澤杯争奪全日本学生英語弁論大会	日本	慶應義塾大学英語會第34回福澤杯実行委員会	2010.10.09	大学生の将来的な国際社会での活躍を視野に入れ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目的に開催する、大学生を対象とした全国規模の英語弁論大会。事前に考えてきたテーマで行う7分間のスピーチと、その場で与えられたテーマについて4分間で行うスピーチの2種類の結果により優勝者を決定
45	第97回日本エスペラント大会	日本	財団法人日本エスペラント学会	2010.10.09 ～ 2010.10.11	一つの言葉による対等な国際（民族）交流を目指し、国際共通語エスペラントの実践者である日本のエスペランティストが年に一度集まり、過去、現在、未来の活動について討論し、交流・親睦を深める催し。また在住外国人を含む国内・外からの外国人の参加者も交え、国際交流、地域との交流に努めた。参加者191名（海外5カ国から9名の外国人が参加）
46	第22回留学生秋のスポーツフェア	日本	特定非営利活動法人留学生スポーツ交流協会	2010.10.11 ～ 2010.11.28	日本に滞在中の外国人留学生と日本人青年・学生が一堂に会しスポーツ等を通して交流することで、国際理解を深め、留学生の日本滞在を支援することを目的として実施
47	南砺の前衛書家7人展	日本	イセ文化基金	2010.10.18 ～ 2010.11.01	富山県南砺市の現代書家グループ「玄土社」所属の女流作家7名（時女信子、板橋輝美、大塚智子、上林三千代、嶋俣子、常川あさ子、高桑昌子）による作品約40点を展示。中国の書のスタイルを日本の美意識で洗練させ、前衛美術として表現

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
48	宇部市制施行90周年・野外彫刻展50周年記念 第24回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）応募作品展	日本	宇部市	2010.10.18 ～ 2010.11.07	UBEビエンナーレは、宇部市で1961年から行われている野外彫刻展。現代彫刻家の登竜門として全国の彫刻家にも認知され、新進・新鋭彫刻家の発掘に大きく寄与している。現在では海外作家の応募も多数を占め、芸術における国際交流の役割も果たしている。海外38カ国からの応募も含め、本年度の応募作品総数は363件。「応募作品展」では、入選作品40点を含めて、一次審査に応募があった全ての模型作品を展覧会形式で展示し、県民・市民に対して広く彫刻鑑賞の機会を提供
49	FISB第24回世界スピードボール選手権 2010 日本大会	日本	特定非営利活動法人日本スピードボール協会	2010.10.19 ～ 2010.10.22	国際的な普及が進むラケットスポーツ競技「スピードボール」の24回目の世界選手権大会及び世界ジュニア選手権大会を通じた市民・青少年の国際交流。本年は日本で開催。選手、日本人ボランティア、在日外国人ボランティア、地域住民との交流を推進し、生涯スポーツとしての普及を通じて様々な人々の健康増進に寄与
50	第51回海外日系人大会	日本	財団法人海外日系人協会	2010.10.20 ～ 2010.10.22	海外在住日系人が母国で一堂に会して居住国の実情を日本に知らせ、併せて国際交流、国際理解、国際親善を深め、世界の対日理解の促進と強化を図る。「日系人の生きる道—海外日系社会のさらなる発展を目指して」を総合テーマに、「日本語教育と日本文化」「在日日系人」「日系ユース」「重国籍、在外選挙、年金」の4つの分科会に分かれて討議。本年度は、24カ国から163名が参加
51	日独国際シンポジウム「ライフコース選択の臨界点：生き方はどこまで自由に選べるのか？」	日本	ドイツ日本研究所	2010.10.22 ～ 2010.10.23	戦後「標準化」した一定のライフコースの近年における変化について、日本とドイツ両国民の生き方の変化に着目し、国際的な視点を交えて多角的に考察する日独国際シンポジウム。明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンターとの共催事業。日・独・米・香港を拠点に活動する研究者が集い、日独社会における個人の生き方の変容を、願望、社会規範、現在の社会状況等との関連から検討
52	ワールド・コラボ・フェスタ 2010	日本	ワールド・コラボ・フェスタ実行委員会	2010.10.23 ～ 2010.10.24	持続可能な社会の実現に向け、中部地域の国際交流・国際協力・多文化共生の活動を広げるために、市民、NGO、NPO、企業、行政が協力し「学び、考え、行動する場」を設けることを目的に、世界各国の歌や踊り、トークイベントや異文化理解・多文化共生などに関するブースの出展などを行う。本年度は特に、持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議が名古屋で開催されるため、環境・貧困・人権・平和などの課題について学ぶきっかけ作りを意図とする。政府関係機関、地方自治体、企業、国際協力・交流団体など延べ104団体が参加。来場者数は、約93,000名
53	第11回NHKアジア・フィルム・フェスティバル	日本	日本放送協会	2010.10.23 ～ 2010.10.27	アジア各国の新進気鋭の監督による最新映画から、優れた作品を精選し、視聴者が各国の文化や歴史について理解を深められるよう識者の解説も交えつつ上映。アジアの映像文化の振興に寄与することを目的とした映画祭

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
54	第23回東京国際映画祭	日本	公益財団法人ユニジャパン	2010.10.23 ~ 2010.10.31	国際映画製作者連盟 (Fédération Internationale des Associations de Producteurs de Films : FIAPF) 公認のアジア地区最大規模の国際映画祭。映像コンテンツ分野における国際交流の促進や次代の映画祭を担う才能の発掘と育成及び日本の映画・映像産業の振興と世界市場へ向けてのプレゼンスの発信等々を目的として、毎年度開催。「コンペティション」部門、「アジアの風」部門、「日本映画・ある視点」部門、「特別招待作品」部門等の上映企画に加えて、会期中には経済産業省主催の映像コンテンツ・マーケットが併設され、また映画・映像に関連したセミナーやシンポジウムも実施
55	第8回大垣国際招待ポスター展	日本	日本国際ポスター美術館	2010.10.23 ~ 2010.12.22	日本国際ポスター美術館は1985年よりアメリカ・フランス・ポーランドをはじめ旧ソ連や中国等のポスター展を開催してきた。また、隔年で世界で活躍中のアーティストに近年の出品を依頼し、一挙展示し、ポスター芸術を通じて世界の今を紹介してきた。本年は、世界19カ国から66名の招待者及び236点の作品を展示
56	平成22年度日本語教育能力検定試験	日本	財団法人日本国際教育支援協会	2010.10.24	日本語教員となるために学習している者、日本語教師として教育に携わっている者等を対象に、その知識及び能力が日本語教育の専門家として必要とされる基礎的水準に達しているかどうかを検定
57	「障害者週間」東欧音楽家支援国際親善交流特別演奏会	日本	日本音楽文化交流協会	2010.10.25 ~ 2011.03.30	毎年世界各国の演奏家を日本に招へいし、国際親善交流を目指し、お互いの文化の発展向上を目標に演奏会を開催。また、文化の振興を図り、社会貢献の一環として、日頃、演奏会を楽しむ機会の少ない視覚障害者や身体障害者、ボランティア団体・母子家庭・養護施設の子供たち、高齢者を招待し、健常者と共に一流の音楽を堪能してもらう機会を提供
58	第12回語学留学生の祭典「進学・就職・国際フェア」	日本	日本語学校ネットワーク	2010.10.26	日本語の普及、日本語学校卒業後の進路紹介、国際交流及び日本理解の場を提供することを目的とし、大学・専門学校紹介のブース・企業ブース・各国文化紹介のブース等を設営し、国際交流の集いを開催
59	クロスロード2010	日本	クロスロード・プロジェクト	2010.10.30	林光 (作曲家) の作品『パリ1923』(ギター、フルート、歌)を中心に、大杉栄を初め1920年代前後のフランスと日本で活躍した人々の言葉と音楽を重ね、当時を浮かび上がらせることによって、現代を見つめ、未来へつなげるコンサートを実施
60	第9回全養協フォーラム「日本語教師の多様化と求められる専門性・資格」	日本	一般社団法人全国日本語教師養成協議会	2010.10.30	日本語学習者の多様化に伴い、日本語教師には、更なる柔軟性が求められている。今回のフォーラムでは、ビジネス日本語教育・年少者教育・進学予備教育・生活者への日本語教育支援、また技能実習生への日本語教育といった現場では、どのような教師が求められているのか、期待されている専門性は何か、そして日本語教師の資格はどうあるべきかをテーマとして、掘り下げる場とした

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
61	日英交流の絆	日本	日英博覧会100年記念実行委員会	2010. 10. 30	日英博覧会100年記念行事の一環として、ロンドンで記念シンポジウム、セミナー、写真展、日英博覧会日本庭園の修復、祭典等を実施。併せて、東京においても公開シンポジウムを開催し、日英博覧会の経験とその意味について考える機会を提供。都築忠七（一橋大学名誉教授）が基調講演「100年前の日本と英国：その時代的背景」を行った他、以下の6名の専門家が講演 イアン・ニッシュ（ロンドン大学名誉教授）「日英博覧会与通商関係」、堀田綾子（歴史家）「外交目的としての日英博覧会」、杉山伸也（慶應義塾大学）「日英博覧会の経済的背景」、ピーター・オコーノ（武蔵野大学）「日英博覧会 とメディア」、渡辺俊夫（ロンドン芸術大学）「1910年における日英美術と日英博覧会」、林みちこ（ポーラ美術館）「日本側の古美術品、近代美術（絵画）」
62	第12回京都東山文化振興会「蓮如の里文化公演」	日本	財団法人本願寺維持財団	2010. 10. 30	蓮如上人によって育まれた伝統文化が受け継がれてきたあわら市において、参加者を広く全国から募り、地元を題材にした狂言とその解説講座、邦楽コンサートを実施。北陸の文化を全国に発信し、また日本文化の発展にも資することを目的とする近隣の企業、宿泊施設等で就業する外国人従業者、研修生等（中国人、日系ブラジル人を中心に250名が就業中）に本公演を周知し、日本の伝統文化の海外への紹介・発信を図った
63	第17回大阪ヨーロッパ映画祭	日本	大阪ヨーロッパ映画祭実行委員会	2010. 10. 30 ～ 2010. 11. 23	日本とヨーロッパの相互理解促進及び地域の国際文化交流発展へ寄与することを目的に開催、日本においてヨーロッパ映画を紹介する重要な場としての地位を築くことを目指す。本年度のメインイベントは、11月18日（木）～23日（火・祝）の6日間に亘って開催されるヨーロッパ最新映画の初上映、日本・ポルトガル修好150周年記念ポルトガル映画特集、「甘い生活」特別企画特集、キンダーフィルム特集
64	韓国伝統音楽・舞踊「サルプリ」公演	日本	韓国伝統音楽・舞踊「サルプリ」公演実行委員会	2010. 11. 05	日韓両国の相互理解を深めることを願い、韓国の伝統音楽・舞踊公演「サルプリ」を実施。韓国より金清満（準人間文化財）を含む6名の演奏家を招き、在日の舞踊家、演奏家を交えて公演
65	第36回全国語学教育学会年次国際大会	日本	特定非営利活動法人全国語学教育学会	2010. 11. 19 ～ 2010. 11. 22	第二言語・外国語としての言語教育の理論と実践を様々な角度から大会参加者と共に考える。語学教育専門家を招へいし、大会テーマ「Creativity — Think Outside the Box—創造力：既成概念に捉われずに考える」に沿った基調講演、500を超える講演、研究発表やパネルディスカッションが行われた。参加者数1,788名（国内1,676名、国外112名）
66	第27回全国中学高校教員による英語弁論大会	日本	財団法人国際教育振興会	2010. 11. 21	近年、日本の国際化の推進及び英語教育方法の再検討が求められ、小学校での英語教育導入、高校での英語授業に英語を使用するなどの新方針が確定されている。このような状況下、指導力の増強が更に求められる現職英語教員に、英語で発信する公開の場を提供し、教育現場での英語教育実技向上に資することを目的に実施

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
67	第6回 JUCTe国際教育シンポジウム	日本	日本国際教育大学連合 (Japanese University Consortium for Transnational-education :JUCTe)	2010. 11. 23	マレーシア高等教育借款事業 (HELP) の歴史を振り返り、その意義を評価し、産学の連携が更に重要になる今後10年の高等教育を展望する国際シンポジウムを開催
68	第13回京都国際学生映画祭 (KISFVF 2010)	日本	公益財団法人大学コンソーシアム京都	2010. 11. 27 ~ 2010. 12. 04	京都国際学生映画祭は、京都周辺の学生が主体となって行う日本最大の国際学生映画祭。国内外の学生映画を募集・審査し、入選作品を上映。また、国内外から入選した学生監督や、プロとして活躍している専門家を招き、国際的な映画製作の交流の場を提供。最終審査員は相内啓司 (映像・造形作家/京都精華大学教授)、安藤モモ子 (映画監督/脚本家)。コンペティション (11.27~12.03)、特別企画・連携企画 (12.04) 授賞式を実施
69	第5回中国語スピーチコンテスト	日本	特定非営利活動法人立命館孔子学院	2010. 11. 28	中国語教育の促進、中国語文化の理解の促進及び奨学生派遣のための選考の機会として開催。参加者は、日本全国の中国語教育を行っている高等学校・大学や一般から広く募集し、高校生の部、大学生を含む一般の部の二部構成で実施。それぞれの部門で最優秀賞、優秀賞などを表彰
70	中国語作文コンクール	日本	特定非営利活動法人立命館孔子学院	2010. 11. 28	立命館孔子学院創設5周年を記念した「中国語作文コンクール」。中国語教育の促進、中国文化の理解の促進及び奨学生派遣のための選考の機会として開催。これにより中国語学習者の持続的な努力を励まし、中国語運用能力の一層の向上を期待
71	文学賞「第六回親鸞賞」第2部記念行事	日本	財団法人本願寺維持財団	2010. 12. 06	日本の精神文化・伝統文化を宗教、文学、思想、哲学、芸術などの面から多角的に論じて、その興隆を期すとともに、混迷の世界情勢にこそ求められる日本の文化を、宗教・芸術・文化の「首都」である京都から世界へ伝えるべく、関西在住の外国人研究者等を招待し、シンポジウムを実施
72	日本 - インドネシア服飾交流展	日本	日本 - インドネシア服飾文化協会	2010. 12. 13 ~ 2010. 12. 18	日本とインドネシアの伝統服飾の展示による紹介及び両国民の友好親善を増進。服飾の展示、講演、ファッションショー、舞踏等を実施
73	「平和を願って」植えられたボスニア・ヘルツェゴビナの桜	日本	イビル・イビルの会	2010. 12. 21 ~ 2011. 01. 09	三民族の平和的な共存を願い「平和のシンボル」として寄贈した桜の様子、イビル・イビルの会派遣の専門家による育成管理の指導の様子、現地の人達との交流の様子を写真を通して伝える。また、ボスニア・ヘルツェゴビナの物品の展示、駐日ボスニア・ヘルツェゴビナ大使の講演などを実施
74	Study Trip from Singapore to Japan 2010	日本	The Asian Law Students' Association Japan	2010. 12. 22 ~ 2010. 12. 28	The Asian Law Students' Association Japanは地域的協調にもとづく平和で公平な社会の実現という理念の下、アジア各国の法学生同士の交流を実施。今回は日本とシンガポール両国で法を学ぶ若者たちが、共通する問題 (少子高齢化、臓器移植法、移民) に対してテーブル・ディスカッションと模擬裁判 (中央大学法科大学院模擬法廷を使い、日本vs. シンガポールで模擬裁判) 見学 (都内のクリスマスイルミネーションを廻り、日本のクリスマスの様子を紹介) 等を実施

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
75	第32回国際学生シンポジウム	日本	第32回国際学生シンポジウム運営委員会	2010. 12. 25 ～ 2010. 12. 27	全国から集まった約260名の学生(運営委員を含む)が、2泊3日の間、6つの分科会に分かれてディスカッションを行い、最終日に各分科会ごとに成果を報告 日本経済：AMBITIOUS JAPAN～「失われた20年」から「これからの20年」へ～、教育：～社会の道を作るもの～、日本社会：～これからの『労働』の話しよう～、開発：～What do we must think about? ～、日本政治：government of the people, by the people, for the people、安全保障：～“State flagged actors”～自明性をreflexiveに問い直す～の5つのテーマを扱う
76	兵庫県国際交流協会設立20周年記念シンポジウム	日本	公益財団法人兵庫県交際交流協会	2011. 02. 15	協会設立20周年を記念し、有識者による基調講演、パネルディスカッションを通じて、県民とともに兵庫・神戸の地を、アジアに生きる地球市民の視点から見つめ、新しい時代の社会デザインについて考察を深めるとともに、多文化共生社会への道筋を模索 [基調講演] 「地球市民社会に生きるとは」姜尚中（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授） [パネルディスカッション] 「兵庫・神戸からアジアの多文化共生社会を考える～アジア多文化共生社会への道筋(ロードマップ)～」 コーディネーター：竹沢泰子（京都大学人文科学研究所教授） パネリスト：姜尚中（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）、ネルケ無方（曹洞宗安泰寺住職/ドイツ人僧侶）、エドワード須本（ミックスルーツ関西代表）
77	第7回日本語学校合同スピーチ大会	日本	第7回日本語学校合同スピーチ大会実行委員会	2011. 02. 18	「日本語」を学ぶ外国人留学生在が主体となり、スピーチ大会を実施。本年は、都内の日本語学校7校の代表13名が出場。「日本語」に関心のある人々や広く一般の人々にも新たな魅力を伝え、日本語ブーム再到来の機会となることを期待すると共に日本語学校が合同でイベントを実施することにより、学校側の交流と連帯意識を促進し、更に国際人として留学生の活躍を囑望する各方面へのアプローチを図る
78	日本×カナダ 共同制作公演 Susuriwka ～ willow bridge ～	日本	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	2011. 02. 19 ～ 2011. 02. 20	ダンスカンパニー「カハーウィ・ダンスシアター」を率い、先住民族の精神性を舞台芸術で表現するカナダ先住民出身の振付家サンティー・スミス(SMITH, Santee: 演出・振付)とアイヌ民族出身の音楽家で、権太アイヌに伝わる弦楽器・トンコリを中心とした斬新なサウンド作りで世界を驚かせたOKI(音楽監督・作曲)が新しいコンテンポラリーダンスを創作、初演
79	第26回北方圏国際シンポジウム 「オホーツク海と流氷」	日本	北方圏国際シンポジウム実行委員会	2011. 02. 20 ～ 2011. 02. 25	流氷と氷海に関わりを持つ、全ての分野の研究技術情報の交換や、海洋環境の保全を目的とした研究発表、オホーツク海に接する北方民族文化に焦点をあて、オホーツク海文化圏域における豊かで個性的な生活・文化の構築を目指す

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
80	第10回国際文化交流シンポジウム	日本	財団法人国際文化交流事業財団(JICEF)	2011.02.27	国際文化交流の推進、世界平和の実現を目指す国際文化交流シンポジウムを開催。 フルブライト奨学金で来日中のTimothy Unverzagt Goddardが、国際文化交流シンポジウムに参加。第10回目は「文化交流による平和世界の建設」というタイトルのもと、米国、中国、ロシアの留学生と共に「明るい未来を創るために私たちが出来ること」というテーマでディスカッションを実施
81	アース・ビジョン 第19回地球環境映像祭	日本	アース・ビジョン組織委員会	2011.03.04 ~ 2011.03.06	1992年にアジアで初めての国際環境映像祭「アース・ビジョン第1回地球環境映像祭」を開催。以来、環境映像の普及と制作者たちの作品発表の場の提供、交流・支援を目的として、アジア・オセアニア・ポリネシア地域の作品を公募し上映。第14回映像祭より、新たに「子どものための環境映像部門」を設け全世界に門戸を広げ作品を募集し、優れた作品を紹介。新しい部門の設立は、環境映像を通して、次世代を担う子ども、若者が、地球環境、世界各地の社会、文化に触れ、視野を広げることを狙ったもの
82	国際シンポジウム「日本研究における内外の視点」	日本	西尾市岩瀬文庫（西尾市教育委員会文化振興課）	2011.03.04 ~ 2011.03.06	海外に存在する日本に関する文化資源（美術品、文化資料、芸能など）を対象とする国際研究、もしくは「日本」を対象として行う海外の研究者との共同研究の成果を、一般に向けて広くわかりやすく紹介する市民講座を開催。 【03.04 名古屋大学 全学教育棟北棟406】フランス国立図書館写本室蔵『酒飯論絵巻』について／ヴェロニク・ベランジェ（フランス国立図書館）他【03.05 西尾市岩瀬文庫 地階研修ホール】書き直された古典～『枕草子』を中心に～／ゲルガナ・イワノワ（ブリティッシュ・コロンビア大学）他、 【03.06 西尾市岩瀬文庫 地階研修ホール】阿仏尼の人生と作品から読み取られる中世女性の姿／クリスティーナ・ラフィン（ブリティッシュ・コロンビア大学）他
83	第3回SWISS WEEK—チェンバロ2台とバロックチェロのコンサート	日本	若手音楽家育成アヤマ基金	2011.03.19 ~ 2011.03.27	バーゼル音楽院の卒業生3名のTrio Adrianoが、2台のチェンバロとバロックチェロを使用し、J.S.バッハ、ハイドン、ヴィヴァルディ等の作品を演奏。また、若手音楽家と公演を支えるボランティアが進行を担当することにより、国際交流の場をつくることに努め、同時にコンサートの活性化を図った
84	特別展「池田理代子 ベルサイユのバラ原画展」	日本	京都精華大学	2011.03.19 ~ 2011.05.08	国際観光都市・京都にあって、とりわけ海外からの入館者の多いマンガミュージアムを舞台に、マンガ原画を鑑賞する貴重な機会を提供するとともに、日本マンガの展覧会を通してマンガ文化をより多くの外国人に理解してもらう機会を創出。前年度、ルーブル美術館との共同主催の「バンド・デシネ」展覧会開催に続き、フランス革命を舞台にした『ベルサイユのばら』原画展（前期：03.19～04.12「薔薇の運命（さだめ）」約150点、後期：04.14～05.08「革命の嵐の中で」約150点）を開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
85	第7回クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	日本	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま実行委員会	2011.03.21 ~ 2011.03.30	本アカデミーは、フランス有数のリゾート地クールシュヴェールで毎年開催される世界各国有数の音楽家による「クールシュヴェール夏季音楽アカデミー」のカリキュラムに従って日本でマスタークラスを開催、国際的に活躍する音楽家の育成を目指すもの。ピアノとヴァイオリンの2つのマスタークラスを開設。受講生達は、世界でもトップクラスの講師陣からレッスンを受け、国際コンクールで優勝する等、輝かしい成果を収めている。期間中、レッスンの公開、アカデミー講師によるコンサート、市内外の音楽愛好家による「街角ふれあいコンサート」等を通じて、市民が音楽と触れ合うイベントも実施
86	ジャパンカルチャーセミナー in Vietnam HANOI	ベトナム	学校法人石川学園横浜デザイン学院	2011.03.27	日本文化に興味を持つハノイの若者に対して日本文化の情報（日本文化、漫画のベトナムでの浸透、各教育機関との連携、日本語教育の普及と体験）を提供。セミナーでは、漫画の描き方ワークショップ、J-POPや日本留学についての紹介等も実施
87	第7回エコプロダクツ国際展	インド	国際機関 アジア生産性機構 (Asian Productivity Organization:APO)	2011.02.10 ~ 2011.02.12	日本及びアジアにおける環境配慮型社会の形成を目指して、アジア各国企業の製品・サービスの循環配慮型への積極的な転換を求め、同時に消費者の意識改革に取り組むため、アジア域内の企業、NGO、一般市民の参加を得て、エコプロダクツ普及のための展示会や国際会議を開催。インド最大の機械・技術関連の統合見本市「国際エンジニアリング・技術フェア2011 (IETF2011)」との同時開催で、日本からは経済産業省・資源エネルギー庁再生エネルギー分野に特化したジャパンパビリオン（運営：ジェトロ）への出展を含め計41団体が出展、3日間で約2万5千人が来場
88	ジャパンフェスティバルージャパン・エヌ・ワイ・シー (Japan NYC)	米国	カーネギーホール	2010.12.14 ~ 2011.04.06	小澤征爾の監督により、ニューヨークで演奏される機会が少ない作曲家の作品の演奏を行い、その本質を聴衆に広く伝える。また、ホール外のイベントとして、日本の伝統文化（太鼓・禅画）と共に、村上隆・奈良美智（等）の最新文化を紹介
89	現代伊万里焼の昇華・プラチナ彩 山本一洋 作陶展	スペイン	株式会社セラ・ジャパン	2010.05.01 ~ 2010.07.31	山本一洋（陶芸家）の、純プラチナを用いた独特の伊万里焼をスペイン・バレンシア国立陶磁美術館に展示し、ジャポニズムの再現を目指す
90	ヴァイオリン・フェスタ・トウキョウ2010	フランス	ヴァイオリン・フェスタ・トウキョウ	2010.11.12	若手ヴァイオリニストに、舞台出演経験を積ませることを目的としてスタート。フランス・パリの名ホール、サル・ガポーのディレクター、マダム・フルニエからの開催要望に基づき、日本とフランスの若手ヴァイオリニスト達が競演することになった。郷古廉、滝千春、寺内詩織やフランスで活躍するスヴェトリン・ルセヴ（パリ国立高等音楽院教授）らが出演
91	第35回ジャパンウィーク 2010年 ボルトガル・ボルト	ポルトガル	財団法人国際親善協会	2010.11.20 ~ 2010.11.25	市民・地域レベルでの文化・スポーツをはじめ、多岐にわたる交流を通して日本と開催国間の友好親善、相互理解を促進し、更には両国の地域社会づくりに貢献することを目指し日本文化紹介事業を実施。日本全国及び現地から総勢48団体・920名が参加。「双方向の交流」をテーマに、オープニング・フェスティバル、劇場公演、展示・実演、交流プログラムを6日間にわたり開催

情報センター事業費

	事業名	実施国	申請者	期間	事業内容
92	第24回国際交流祭 in ワルシャワ	ポーランド	株式会社NHK文化センター	2010.11.18 ~ 2010.11.22	国際相互理解と友好親善を目的に、民間による草の根の国際交流を図る。日本文化を紹介する展示・実演、音楽、舞踏などの舞台公演を開催し、さらに今回は「ショパンYear」を記念し、音楽関係者の講師・受講生とワルシャワ市民と音楽祭を開催し、友好の促進を図る
93	日本現代書トルコ・アンカラ展	トルコ	東洋書人連合	2010.10.11 ~ 2010.10.14	「日本の現代書を世界の芸術に」との理由で、会場などで席書揮毫のデモンストレーションや講演会を開き、国際文化交流と親善に努める。本年度は、トルコ・国立アンカラ大学にて開催
94	日本語教育 Eラーニングセミナー	ケニア	ケニア日本語教師会 (Japanese Language Teachers' Association-Kenya: JALTAK)	2010.11.29	ケニア在住の日本語教師（邦人・現地人教師）に対し、リソース・ツールとして、授業に利用してもらうために、自然会話、語用論を軸に、Eラーニングの様々な側面を紹介

調査研究及び情報提供事業等に必要経費

企画・評価費

1. 調査研究費

- (1) 調査研究
- (2) 事業評価（企画評価）

企画・評価費

1. 調査研究費 / (1) 調査研究

国際交流の促進に資する各種調査研究を行い、成果を広く内外に公開する。

合計額 8,758,021 円

	事業名	対象国	期間	事業内容
1	評価調査	韓国 タイ メキシコ イタリア	2010.04.12 ~ 2011.03.31	事業実施による成果を把握する評価手法開発のため、外部専門家の協力を得て社会調査等の手法を用いた調査を実施
2	理事長と有識者との対談	全世界区分困難	2010.04.01 ~ 2011.03.31	日本の文化交流のあり方、担い手、国際交流基金の役割等について、国際交流基金理事長が、国内の有識者にインタビューし、その内容を国際交流基金のウェブサイトで公開

企画・評価費

1. 調査研究費 / (2) 事業評価 (企画評価)

国際交流基金の業務及び事業について、評価を実施する。

合計額 1,317,078 円

	事業名	期間	事業内容
1	専門評価	2010.04.01 ~ 2011.03.31	平成21年度業務実績報告書の客観性と信頼性を高め、改善事項を把握するため、事業プログラムごとに外部専門家による評価を実施
2	評価に関する有識者委員会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	国際交流基金の業務について、各年度終了後に行う自己評価の妥当性、評価方針、方法ならびに評価結果を踏まえた基金の業務の改善について、有識者に諮るための委員会を開催

調査研究及び情報提供事業等に必要経費

文化事情調査費

1. 調査研究費

(1) 文化事情調査

文化事情調査費

1. 調査研究費 / (1) 文化事情調査

国際交流基金の総合的企画立案機能強化の一環として、相手国別に文化事情を調査し、また、当該国と日本との文化交流において基金が果たすべき役割等につき、方針を策定する。

合計額 4,624,236 円

	事業名	対象国	期間	事業内容
1	日韓文化交流新5カ年計画策定についての懇談会	韓国	2010.10.13	日韓文化交流の中長期的な基本計画を策定するにあたり、有識者から専門的な意見を聴取するための会合を開催
2	中長期的ドイツ向け戦略のための懇談会	ドイツ	2010.11.30	中長期的なドイツ向け事業戦略を検討するにあたり、ドイツ事情に詳しい有識者からの専門的意見やアドバイスを聴取するための会合を開催

調査研究及び情報提供事業等に必要経費

国際文化交流研究センター事業費

1. 調査研究費

- (1) 機関連携事業
- (2) 調査研究

国際文化交流研究センター事業費

1. 調査研究費 / (1) 機関連携事業

大学等の外部機関と連携して行う国際文化交流講座等の事業。

合計額 506,017 円

	事業名	共催機関	期間	事業内容
1	大学連携国際文化交流講座	上智大学	2010.04.13 ~ 2010.07.06	上智大学と連携して、同大学の春期公開講座のひとつとして国際文化交流講座「国際文化交流と現場からの発信—インターカルチュラル理解を求めて—」を開講（全12講義）。国際文化交流や国際協力が相互理解、異文化理解につながっていく事例を紹介し、それを理論的・实际的に精査することにより、新しいパラダイム「国際文化交流」の実践の道標を構築していく試みを紹介

国際文化交流研究センター事業費

1. 調査研究費 / (2) 調査研究

「平和のための文化イニシアティブ」、「国際文化交流機関の比較研究」等のテーマによる研究プロジェクト及び紀要の発行等。

合計額 12,212,787 円

	事業名	期間	事業内容
1	国際交流共同研究センター事業	2010.04.01 ~ 2011.03.31	青山学院大学と連携・協力して運営する「国際交流共同研究センター」において、「平和のための文化イニシアティブ」及び「国際文化交流機関の比較研究」をテーマに、シンポジウム、ランチタイム・セミナー等を開催。また、同センターの研究紀要 <i>Peace and Culture</i> 第3巻第1号を発行
2	国際文化交流政策情報収集	2010.04.01 ~ 2011.03.31	諸外国の広報・文化外交に関する報告書、文化関係機関の年報、政府や文化関係者による記者発表等を翻訳・情報収集し、国際文化交流の動向を調査。また、前年度にマドリード日本文化センターが設置されたスペインについて、スペイン在住の有識者に委託し『スペインのパブリック・ディプロマシー』に関する報告書を作成

調査研究及び情報提供事業等に必要な経費

事業開発戦略室事業費

1. 催し等事業費

(1) 事業開発 (催し)

2. 文化資料事業費

(1) 事業開発 (文化資料)

事業開発戦略室事業費

1. 催し等事業費 / (1) 事業開発 (催し)

企業等と連携した新規事業及び従来の枠組みや発想にとらわれない部門横断型事業の開発と実施。

合計額 18,853,363 円

	事業名	実施国	都市	共催・協力機関	期間	事業内容
1	日韓学生パッケージデザイン交流	韓国 日本	ソウル 東京	日韓学生パッケージデザイン交流プロジェクト実行委員会 株式会社ロッテ 大日本印刷株式会社 社団法人日本パッケージデザイン協会	2010.04.01 ~ 2011.03.31	企業とのマッチングファンド形式の開発型事業として、株式会社ロッテ、大日本印刷株式会社、日本パッケージデザイン協会の協力により「日韓学生パッケージデザイン交流プロジェクト」を日韓学生パッケージデザイン交流プロジェクト実行委員会と共催。コンテスト、デザインフォーラム、学生向けの研修を実施。またデザイン展「日韓学生パッケージデザインコンテスト優秀作品展」を東京(10.12.11~12.19)及びソウル(11.01.18~02.11)の2都市で開催。ソウルにおける同展の開催は、主要都市向け戦略的文化集中発信プロジェクト(日韓新時代:未来へのコラボレーション)事業の一環として実施
2	商品開発事業	韓国 インドネシア シンガポール ベトナム オーストラリア カナダ 米国 ブラジル ドイツ ロシア トルコ	ソウル ジャカルタ シンガポール ハノイ シドニー トロント ニューヨーク サンパウロ ケルン モスクワ アンカラ		2010.04.01 ~ 2011.03.31	海外及び日本の学生応募作品による「JFオリジナルふるしき」デザイン展の開催。 ①「2010年トルコにおける日本年」記念事業の一環として「トルコ・日本の学生によるふるしきデザインコンテスト」を開催、優勝者の授賞式を実施したほか、 ②「第2回学生のための国際ふるしきデザインコンテスト」の開催、授賞式を実施
3	CSR連携事業	中国 ベトナム	北京 ハノイ	特定非営利活動法人パブリックリソースセンター	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国、ベトナムにおける日系企業の社会貢献活動に関する調査を実施
4	新宿区との連携事業(先駆的創造的事業)	日本	東京	みんなのおうち	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「大久保アートプロジェクト」の一部として佐藤博昭を講師に招き、新宿区在住の中・高校生を対象に映像制作ワークショップを実施

事業開発戦略室事業費

	事業名	実施国	都市	共催・協力機関	期間	事業内容
5	中東欧における日本の伝統演劇講座(先駆的創造的事業)	ルーマニア	ブカレスト	公益社団法人国際演劇協会 (UNESCO-ITI) ポーランド・コカコーラ ポーランド文化省 ルーマニア文化会館 桐朋学園短期大学 在ルーマニア大使館	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	日本から善竹十郎(能・狂言・重要無形文化財総合指定保持者)、加賀谷早苗(現代舞踊)及び藤間藤三郎(日本舞踊・歌舞伎)などの講師を派遣し42日間計230時間にわたりルーマニア及びポーランドの若手・実力派俳優・演劇人等を対象に日本の能・狂言、現代舞踊、歌舞伎の3分野について集中研修を実施。最終日には受講生によるデモンストレーションも実施
6	日本のマンガ教室(実施準備)	—		京都国際マンガミュージアム	2010. 04. 01 ~ 2011. 03. 31	平成23年度事業として実施予定の「日本のマンガ教室」事業の実施準備。 世界各国で人気を博している日本のマンガを題材に1)マンガ家の指導による描き方教室、2)専門家による日本のマンガに関する講演会、3)マンガを利用した日本語教室の3種類の事業を通じて紹介することにより、海外における日本のマンガへの理解、ひいては日本理解を促進

事業開発戦略室事業費

2. 文化資料事業費 / (1) 事業開発 (文化資料)

国際交流基金広報グッズの開発及び調査報告書等出版物の制作。

合計額 12,605,807 円

	事業名	対象国	期間	事業内容
1	CSR連携事業	アジア地域区分困難	2010.04.01 ~ 2011.03.31	中国、ベトナムにおける日系企業の社会貢献活動に関する調査報告書を作成。中国分については、『中国における日系企業の社会貢献活動に関する調査報告書 [第3回調査]』(日本語版)として刊行
2	食文化紹介事業	欧州地域区分困難	2010.04.01 ~ 2011.03.31	国際文化会館との共催により2年間(2007.01~2009.01)に亘って実施した講演会シリーズ「料理でめぐるフランス文学散歩」を『名作から創るフランス料理』(2010.07.17発行:かまくら春秋社)として出版したほか、次年度実施予定の食文化紹介事業の準備を行った
3	商品開発事業	全世界区分困難	2010.04.01 ~ 2011.03.31	「日本文化と海外文化を融合する発想のデザイン」をコンセプトに、日本及び海外公募によるデザインを基に、国際交流基金オリジナル広報グッズを作成し、各種事業の広報活動に利用した